

# news.



最近自伝である『THE ROAD AHEAD』を上梓したばかりのビル・ゲイツがインターネットを語った。

Microsoft Internet Strategy Workshop レポート

## MS が本気のインターネットビジネス宣言 イントラネットとの融合を強調

レポート・山田祥平

95年12月7日、米ワシントン州シアトルセンターで開かれた「Microsoft Internet Strategy Workshop」でマイクロソフトのインターネットへの取り組みが発表された。ビル・ゲイツ氏は企業内情報システム「イントラネット」とインターネットとの融合を重要視し、Windows 95、Windows NT、Microsoft Office の各製品をインターネット利用環境のベストプロダクトにする方針を語った。

「マイクロソフトを始めた20年前、すべてのデスクと、すべての家庭にコンピュータをというビジョンを持っていました。コンピュータ同士は互いにつながるだろうし、ダイアルアップで豊富な情報を取り出せるようになることも明確でした...」

そんな語り出しで壇上のビル・ゲイツは、TCP/IPもHTTPも決して新しいプロトコルではないことを強調しつつ、興奮気味にインターネットの歴史をトレースし始めた。

数百名の報道関係者、アナリストらを集めて開かれた「Microsoft Internet Strategy Workshop」は、マイクロソフトがこれから本気でインターネットビジネスに取り組むことを宣言する記念すべきイベントだった。

この日の結論を先に書いてしまうと「マイクロソフトはインターネットのハードコアとして、その革新のためにさまざまな事業に取り組む。そうしていくことは、ユーザーにとってもデベロッパーにとっても価値のある

ことではあるが、結局は長い時間をかけて取り組むことがとても重要だ」という、きわめて意味深で、曖昧なものだった。要するに、長い目で見てねということなんだろうか。

セッションでは、早朝から夕方までかけて、3つ提示された。最初のキーノーツは、もちろんビル・ゲイツ自身によるものだ。

### Win95 と NT に インターネットのアドオン

まず、マイクロソフトの各プロダクトとインターネットの関係をここで確認しておこう。ゲイツによれば

Windows --- ベストクライアント

Windows NT --- ベストサーバー

Office --- インターネットのビジネスソリューション

MSN --- インターネットオンラインサービスということになる。NTの市場は、インター

ネットのHTTPサーバーとして使われることでまだまだ大きくなるということ、そして、MSNをインターネットのサービスであると断言している点が興味深い。

さらに彼は、インターネットビジネスを商売になるか否かで分析した。それによれば、通信事業は発展途上、オンラインサービスは商売になっても勝利のチャンスはわずか、OS事業としてのサーバービジネスとサーバーアプリケーション、そしてブラウザーやクライアントOSは十分にビジネスが成立するとした。

具体的には、96年中にWindows 95 と Windows NT に対してインターネット・アドオンをリリースすることが発表された。これは、現在のWindows 95 標準のエクスプローラーやマイコンピュータ（実は同じものだが）のインターネット拡張で、それにWEBビューを付加するというものだ。



マイクロソフトの幹部たちが次々に新戦略を発表

## VB をインターネット用言語に Office にもブラウザ機能

また、インターネットアプリケーションの標準言語としてVB スクリプトを採用することを表明。このランタイムは、各ベンダーに無料でライセンスされる。これは、HTML に Visual Basic のスクリプトを埋め込むというもので、ポピュラーなページで使われているすべての仕様がサポートされる。それには、Java および Java スクリプトも含まれるという。ブラウザは、コンピュサーブ、スパイグラス、オラクルとの共同作業で開発が進められていて、3D ナビゲーションを実現する VRML も使われるという。

サーバーとしての NT では、96 年第一四半期に、現在ベータテスト中のインフォメーションサーバーが出荷され、バックオフィスアプリケーションとして、第二四半期にファイアーウォールとしての Proxy Server とメディアサーバーなどがリリースされる。

さらに、Office 関連では、すべての Office アプリケーションで HTML の出力が可能になり、同時に無料の Office ビューアが配布される。そして、次期 Office では、インターネット対応がメジャーテーマとなり、WEB ページ作成のためのウィザードなどもサポートされるようだ。ここでは、バインダーが重要な役割を持ち、COMDEX Fall '95 で御披露目されたインターネットと密接な関

連を持つ OLE コンテナとしてのバインダーがクローズアップされる。

ブラックボードのコードネームで開発中の製品は「インターネットスタジオ」という商品名で出荷されることが決定した。

MSN は、次世代のオンラインサービスとして、今後、どんな WEB クライアントからでもインターネッ

ト経由で使えるようになる。

ゲイツは、今後のビジネスにおいて、そのコンペティターとなる各企業を名指しであげた。それはすなわち、IBM/ロータス、ネットスケープ、アメリカオンライン、そして数々の UNIX ベンダーである。その顔ぶれから、今後のマイクロソフトの動向が予測できるのはいうまでもない。

要するにマイクロソフトは、VBI (Visual Basic for Internet) をサポートするブラウザであるインターネットエクスプローラーと、オフィスブラウザを無料で大量に配布し、それらで閲覧するためのコンテンツを作るためのツールとしての Office やサーバーとしての NT、クライアントとしての Windows 95 を売ろうとしているわけだ。

このワークショップに日本のマイクロソフトから参加した古川享氏によれば、これらのサーバー、ツール、クライアント類の価格設定はきわめて廉価なものであり、数を大量にさばくことでしか収益をあげられないとのことだ。

## インターネットもローカルも シームレスな環境になる

ゲイツに続いてのセッションは、プラットフォームグループのポール・マリッツによるもので、WAN としてのインターネットが強調され、FTP を使ったネットワークファイル共有やパブリックフォルダーとエクステン

ジによるワークグループコンピューティングの概要が紹介された。

つまり、今後の Windows は、WEB ページであろうと、Office ドキュメントやデータファイルであろうと、ローカルの PC が持つリソースであろうと、すべてが共通でシームレスに見られることを目指すようだ。また、「インターネットスタジオ」では、ドラッグ&ドロップによるオブジェクトの配置とイベントのプロパティ設定によってチャタリングでインタラクティブなページが容易に作れることをアピールした

そして最後のセッションでは、アプリケーション・コンテンツグループのビート・ヒギンズが、各製品のプランを明らかにした。それによれば、90 日以内に、HTML エディターとオフィスのフリービューアをリリースし、また、インターネットエクスプローラーが OLE 2.0 の機能の 1 つである DocObjects をサポートする。はめこんだオブジェクトをダブルクリックなどの操作でアクティブにすると、ツールバーやメニューバーが変わり利用できるようになる。

MSN は、100 日以内に会員数 60 万人を突破、フルインターネットアクセスを実現し、NNTP や SMTP/MIME などサポートするようになる。そして、インタラクティブ 3D チャットの V-chat や MSN 経由での Fury3 マルチプレーヤーゲームなど新しいサービスも追加され、インターネットを経由し、他社製のブラウザでも利用できるようになるという。

このワークショップの中で、マイクロソフトは折にふれて外部の「Internet」と内部の「Intranet」との融合に言及した。「Intranet」とは閉じられた LAN のことだと考えていいだろう。それが広域ネットワークであるインターネットと融合することで、新しいステージができあがる。そこでマイクロソフトが、いったいどんな演技をするのか。その構想が、きわめて遠慮がちに聞こえたのは、僕自身の語学力のつたなさによるものなのだろうか。

## 新規プロバイダー情報

商用インターネットサービスプロバイダーの増加が依然として続いている。大手メーカーによる参入も相次ぐ中、各地域の地場産業による参入も多いという構図は相変わらずだ。地方のアクセスポイントは大幅に充実してきた。また、既存のプロバイダーも、アクセスポイントの増設ペースを早めているようだ。

### 松下がプロバイダー事業に参入 地域限定サービスも着実に増加

家電メーカーの大手、松下電器産業がプロバイダーサービス「Hi-ho」を開始した。家電メーカーのプロバイダー事業としては日立やソニーが先行していたが、ついに最大手の松下が参入。特別第2種事業者として12月1日から、IJJ大阪と接続してサービスを開始した。アクセスポイントは当初は大阪。東京などにも開設を予定している。

各地域のプロバイダーの増加も活発だ。北海道では先月号で紹介した「東北海道インターネット協議会」に加え、新たに釧路で「マリモインターネット」がサービスを開始した。道東地域にはISDNのアクセスポイントがなかったため、使いたかった人には朗報である。

東北地域で始まったのは仙台を拠点とするGNOC。さらに、従来は仙台に集中していた東北地域だが、八戸でミコネットがサービスを開始。現在東京と埼玉県の大宮にアクセスポイントを開設しているASK-netも八戸でのアクセスポイント開設を予定している。

関東地方では、群馬県高崎市で「群馬インターネット」が12月からサービスを開始した。先月に引き続いて北関東のプロバイダーも充実してきている。同じ関東では千葉県我孫子市に「The FSI Network」がアクセスポイントを開設。立川市や八王子市の東京都西部、また我孫子市や神奈川県鎌倉市、茅ヶ崎市など首都圏では東京23区だけでなく地域にもプロバイダーが増えてきた。

また、近畿地方も大阪だけでなく、奈良

県や滋賀県で地元企業による参入が続いている。奈良市では「MAHOROPA」と「しかせんべいインターネット」、滋賀県では「biwaネット」が県内4か所にアクセスポイントを開設してサービスを開始した。

四国では高知富士通システムエンジニアリングによる「InfoRyoma」がサービスを開始した。10月から12月にかけて四国のアクセスポイントもかなり増えてきた。

九州では長崎県の佐世保市で「The FSI Network」がアクセスポイントを開設した。長崎県にはこのほか、「NMCインターネット」などもサービスを開始している。

### C&Cmeshがアクセスポイントを増設 プライマリーはサービスを中止

既存プロバイダーでは大手プロバイダーのアクセスポイントの増加が目立つ。また、今までのサービスを打ち切り、新たな回線を用意して新サービスを開始するところも出てきた。

C&Cmeshは12月から、アナログのアクセスポイントを豊田、豊橋、静岡、熊本、旭川、福井、高知、宇部、藤沢、和歌山などに大幅増設、またISDNの非同期57.6Kや専用線のアクセスポイントも全国的に増やした。

東京インターネットは12月中に名古屋、京都、神戸とアクセスポイントを3か所増設、中部および関西地域のサービスを強化する。

セントラルインターネットは今まで国内の特別第2種プロバイダーに接続してサービスを提供していたが、このほど接続先をアメリカに変更、サービス名を「Starr Direct」とした。従来セントラルインターネ

ットと契約していたユーザーには、「Starr Direct」が引き続いてサービスを提供する。従来はアクセスポイントが横浜だけだったが、東京23区や都下の八王子市にもアクセスポイントを開設した。

また、以前プロバイダーサービスを自店の顧客に限って提供していたパソコンショップ兼メーカーのプロサイドが不特定多数に向けて本格的にサービスを開始した。

プライマリーインターネットはプロバイダーサービスを96年2月で打ち切る方針を表明した。理由は不明だが、今後会員を募集する意向はないとのことなので、注意が必要である。

ネットワーク情報サービスが運営している「NISインターネット」は、新サービス「テレコミIP」を来年2月から開始する。これはサービス料金に電話の通話料が含まれており、アクセスポイントが遠くない地域の人にも、市外電話代を気にせずに28.8Kbpsで通信できる。料金は電話代を含んで1分20円の予定。

さらに、インターネットカフェの「サイバーオズシティー」がワールズ社の「ワールド・チャット」を使用したオンラインサービスを開始。PPP接続のサービスで、ネット・スケープナビゲーターなどを利用してインターネットも使えるようになっている。また、ウィンドウズ95にアクセスソフトが標準バンドルされている「マイクロソフト・ネットワーク」も、ウィンドウズ95の日本語版発売とともに正式にサービスを開始した。12月初旬の現在、電子メールとネットニュースだけ利用することが可能で、WWWを見ることはできないが、現在準備中とのこと。

注：問い合わせは巻末の「主な商用ネットワークサービスプロバイダー料金一覧」をご覧ください。

## NTTが廉価版TA発売 ISDNの普及を推進

NTTは、ISDNの普及拡大を図る一環として、廉価版ISDNターミナルアダプター「MN128」をピー・ユー・ジーと共同開発し、NTTテレコムエンジニアリング東京（NTT-TE東京）から発売した。また、ISDNやマルチメディアに関する情報提供サービス「まるちねっとあい」も開始した。

TAの新製品は、安価でしかも多機能が特徴。非同期38.4kbps、同期64/128kbps、全自動同期PPPなど多彩なパソコン通信機能を搭載しているほか、アナログ2ポート付きで既存の電話機やFAXなどのアナログ機器がそのまま使用できる。さらに、アナログ2ポートにそれぞれ電話番号を割り当てられるダイヤルイン着信機能や、内線通話機能、Dチャンネルパケット通信機能も装備している。価格はオープンブライズだが、

NTT-TE東京直販価格では39,800円。

また、ISDNの100万チャンネル突破（95年10月末）を記念して、同TAとDSU、簡単ケーブルキットのセットも数量限定の特別価格49,800円で販売する。このうち簡単ケーブルキット（2,000円）は、ISDNの接続工事を簡略化し、ユーザー自身で接続できる配線キットで、工事費用を約4分の1に節減可能なもの。一方、情報提供サービスは、ISDNを使ったマルチメディアの利用方法についてパンフレットやCD-ROMで最新情報を提供するほか、パソコンネット形式のオンラインでも提供する。利用料金は無料だが、申し込みが必要である。

問い合わせ NTTマルチメディアビジネス開発部 TEL03-5359-6264

電子メール oshima@mntt.jp

URL [http://www.info.hqs.cae.ntt.jp/dlij/SER\\_J/ISDN\\_J/ISDN\\_J.html](http://www.info.hqs.cae.ntt.jp/dlij/SER_J/ISDN_J/ISDN_J.html)

## 新コンセプトのWWWシステム 日本オラクルが発売

日本オラクルがインターネット用ソフトを発表した。サーバーソフトである「Oracle Web Server」は、HTTPサーバーのOracle Web Listener、Oracle7に結合するためのOracle Web Agent、そしてOracle7 Serverから構成される。バックエンドにoracle7を用いることにより、Webサーバーでの情報検索・入力機能を提供、在庫管理などの社内業務システムとインターネットとの連携が可能になる。もう1つの「Oracle PowerBrowser」はWWWブラウザ。ビューアーだけでなく、メール、チャット、HTMLエディターなどの機能も持っている。「Oracle Web Server」の価格は78万円。「Oracle PowerBrowser」は無償で配布する。

問い合わせ 日本オラクル(株)TEL0473-52-6444

## Directorムービーを再生する Shockwave登場

ホームページ上でDirectorムービーを再生できる「Shockwave for Director」がマイクロメディア社のWWWサイトから無償でダウンロード可能となった。同時にCNN Online、MTV Online、Turner Online、Apple Computerなどさまざまなサイトが、Directorで作成したインタラクティブムービーの使用を始めており、ダウンロード後すぐにShockwave for Directorの体験ができる。DirectorファイルはAfterburnerという圧縮ツールにより約60%に圧縮されており、ユーザーはストレスを感じることなくホームページ上でDirectorムービーを再生できる。

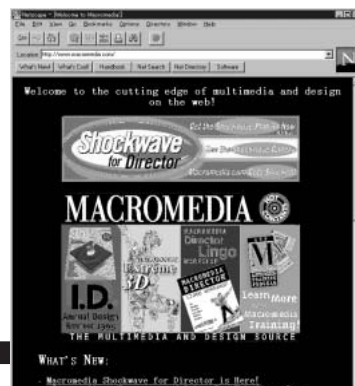
Netscape Navigator2.0のすべてのユーザーが無償でダウンロード可能で、マイクロメディア社のサイトでは、Shockwaveで作成されたムービーの体験や、参加サイトへの

リンク、Shockwaveテクノロジーに関する情報入手もできる。また、Netscape Navigator 2.0の発売から2週間後には、Macromedia Director 4.0の全登録ユーザーを対象に、Shockwave for Directorキットの配布も開始する。このキットには、Afterburnerについてのヒントや、サンプルムービー、Netscape Navigator 2.0に接続するShockwaveプレイヤーが含まれる予定。

問い合わせ マイクロメディア(株)

TEL03-3462-5790

URL <http://www.macromedia.com/>



## 「NetWare Web Server」 米国ノベル社が発売

米国ノベル社は、NetWare4.1上でWWWサーバーを構築できる「NetWare Web Server」を発表した。これはNetWare Directory Servicesのセキュリティや管理機能などNetWareの分散サービスを利用することにより、簡単にWWWサーバーの構築・運用ができるようにしたもの。また、シンメトリックマルチプロセッシングをサポートしており、あらゆる規模の企業やワークグループにおけるWWW構築ニーズに対応できる拡張性を持っている。このほか、UNIXの知識がなくても簡単にインストールできる。価格は995米ドルで、日本国内では年内にテストを開始し、2~3か月後に出荷する予定。

問い合わせ ノベル(株)営業部

TEL03-5481-1161

URL <http://www.novell.com/>

## WWWページを簡単に作る Adobe PageMill 発売

アドビシステムズは、マッキントッシュ用のWWWページデザインソフト「Adobe PageMill」(英語版)を発売した。従来、WWWページの作成はHTMLによりテキストエディタなどで記述する必要があったが、これを効率化したのが今回のソフト。ドラッグ&ドロップによるシンプルな操作でページ作成と編集、更新ができる。

WWWページの作成は、これまでHTML言語による編集やURLアドレス、イメージファイルのフォーマットなど専門的な知識が必要とされていた。また、ブラウザを通して見るまで最終の仕上がりが確認できず、わずかな変更を加えるのにも時間を要するという問題があった。新製品では、こうした煩雑なプロセスにわずらわされることなく、視覚的に、常に最終の仕上がりと同じ画面でWWWページを作成できる。編

集中のページは、一般的なWWWブラウザで開いたときとまったく同じ状態を画面上で確認でき、編集や変更を行った結果はすべてHTMLの機能に合致するように自動的に翻訳されるため、ユーザーが直接HTMLのコードを編集する必要はない。複雑な編集を行わないため、記述ミスによるデータ損失などが起こらず、ファイル間のリンクやイメージの追加なども、素材データをドラッグ&ドロップするだけの簡単な操作で実行できる。

HTMLの最新機能もサポートしており、センタリングや、クリックブルマップ、入力フォーム、チェックボックス、ポップアップメニューなど、すべて画面上で確認しながらレイアウトできる。価格は26,800円だが、96年2月末までは発売記念価格として14,800円で販売する。

問い合わせ アドビシステムズ(株)

TEL03-5423-8111

## ホームページ作成フォーム集 内田洋行からCD-ROM 発売

内田洋行は、ホームページの各種フォームを収録したソフト「インターネットホームページキット / inforgallery」を発売した。ホームページテンプレートを収録しており、既製のレイアウトに文字情報を入力するだけで、HTML言語の記述なしに目的に応じたホームページを作成できる。また、カスタマイズによりオリジナルのホームページを作ることも可能。テンプレートは、会社案内、求人情報、個人プロフィール、カタログショッピング、地域情報、リサイクル情報、バーチャルミュージアムなど10種類。ウィンドウズ/マッキントッシュのハイブリッドCD-ROMで提供し、価格は9,800円。

問い合わせ (株)内田洋行 DC事業部インフォギャラリー推進室 TEL03-5634-6439

URL <http://www.toppan.co.jp/inforgallery/>

## FAX・電話からインターネット 松下電器が接続システム開発

松下電器産業は、電話やFAXから簡単操作でインターネットへ情報受発信できる「インターネット・FAX・電話接続システム」を開発した。既存のインターネットサーバーへ新開発のFAX / 音声通信制御装置とメディア交換装置を付加接続することで、音声ガイダンスとプッシュボタン操作による電話・FAXでの情報受発信を可能としている。この開発により、パソコン操作に不慣れな人でもインターネットを利用できるほか、電話・FAXからの情報自動登録を実現したことで、インターネットへの情報登録時間を従来比10分の1に短縮できるようになった。96年春をメドに販売開始する予定。

問い合わせ 松下電器産業(株)マルチメディアシステム研究所 TEL03-5460-2419

電子メール sugano@trl.mei.co.jp

## 衛星とインターネット使った ビデオオンデマンド開発

日立製作所は、ジャパンハイテクサテライトネットワーク(JHS)と共同で、高品質の動画を含むハイテク情報を随時検索できるビデオ・オン・デマンド・システム「ハイテク・シャワー・オン・デマンド」を開発した。通信衛星から配信される動画情報を日立が開発したビデオサーバーシステム「Mediaplaza/VODシリーズ」に蓄積し、これをインターネットで検索した情報と自動的に結びつけることにより、動画を含むハイテク情報を検索できるようにした。JHSでは、このVODシステムを利用した科学技術情報提供サービスを96年4月から開始する予定で、それに合わせて日立は同ビデオサーバーシステムを発売する。

問い合わせ (株)日立製作所

TEL03-3258-1111

## WWWサーバーソフト 「WebSTAR」日本語版発売

マッキントッシュでWWWサーバーの構築運営が簡単にできるWWWサーバーソフト「WebSTAR日本語版1.2.2J」がSRAから発売された。このソフトは、MosaicやNetscapeなどのWWWブラウザと同一マシンでの共存が可能のため、個人でホームページを作成して情報を発信できるもの。また、マッキントッシュ以外で稼働していたHTMLのハイパーテキストをそのままマッキントッシュに移行できるため、導入後すぐにサーバーを立ち上げることが可能。価格はシングルサーバーが85,000円、3ユーザーパックが18万円。

問い合わせ (株)SRA WebSTAR インフォメーションデスク TEL03-3234-5891

電子メール webstar-info@sra.co.jp

URL <http://webstar.takenoko.or.jp/>

## 国土庁が地方都市博覧会をインターネットで開催

インターネットを活用した世界都市づくり支援事業を推進する国土庁は、95年12月から約3か月間、地方のお国自慢をWWW上に集めた「地方都市インターネットエキスポ」を開催している。参加都市は北海道の岩見沢市から南は鹿児島市まで全部で24都市。また、参加都市以外でも、県、教育機関、民間企業、米国の自治体などにリンクしている。モニター参加者により、インターネットの効果と今後の課題を検討する。

URL <http://www.park.or.jp/expo/>



## 日本新語・流行語に「インターネット」が選定

「現代用語の基礎知識」による本年度の新語・流行語トップ10が選定され、95年12月1日、その発表会と用語関係者の表彰式が行われた。今年話題になった「インターネット」は大賞には選ばれなかったが、トップ10に選考され慶應義塾大学教授、村井純氏が受賞者として表彰された。ちなみに、大賞に選考されたのは、「無党派」「がんばろう神戸」「NOMO」の3語。

問い合わせ `95日本新語・流行語大賞事務局 TEL 03-3555-2338

## 電子メール新聞 Internet Watch 創刊

インターネットの動きを伝える日刊の電子メール新聞「Internet Watch」がインプレスから創刊された。土日を除く毎朝10時にWWWサーバーや新着ソフト、ニュービジネスなどインターネットの新鮮な話題を電子メールで流すほか、画像や音声などの情報はWWW上で掲載する。現在、無料購読キャンペーン中で、申し込みがあればメーリングリストへの再配信も可能。有料版の創刊は2月1日。購読料は半年契約の場合、月500円以下を予定している。なお、目標購読者数は2月1日時点で3万人だが、配信開始10日後の95年12月現在ですでに1万5000人が登録している。アドレスではニフティサーブが最も多いという。

問い合わせ watch-info@impress.co.jp

申し込み受付 watch@impress.co.jp

URL <http://www.watch.impress.co.jp/>

## 就職情報の「キャリアスペース」毎日コミュニケーションズから

新卒向け就職情報誌を発行する毎日コミュニケーションズは、WWWを利用して企業の採用情報提供サービス「キャリアスペース」を開始した。新卒採用だけでなく、通年採用、中途採用の情報も提供していくほか、就職、転職のノウハウや起業家の紹介など就職に役立つ情報も提供する。また、96年2月15日からは、「毎日就職ガイド全国版」(96年4月1日発行予定)のデータによる全国優良企業2500社の採用情報をデータベースの形で提供する予定で、27の検索項目により自由に企業が探せる。採用情報の利用料は無料。

問い合わせ (株)毎日コミュニケーションズ 就職情報事業部 TEL03-3222-7862

電子メール csm.@mycom.co.jp

URL <http://www.mycom.co.jp/career/>

## 「バーチャル黒ひげ危機一発」トミーのホームページでスタート

トミーは、大和総研と共同開発したインターネットオンラインゲーム「バーチャル黒ひげ危機一発」をスタートさせた。同社のホームページ上で始めたもので、画面にタルに入った黒ひげと6本の剣が現れ、プレイヤーは好きな色の剣を選んで剣をクリックする。セーフならタルに剣が刺さったままの画面となり、アウトならタルがバラバラとなり黒ひげが飛び出してゲームオーバーとなる。飛び出す剣の位置はアクセスごとにランダムに変化する。5本を無事に刺し込めたら景品応募の画面に変わり、必要事項を書き込んで送信すると、抽選で毎月20名に景品が当たる。

問い合わせ (株)トミー 広報室

TEL03-3693-8630

URL <http://www.dir.co.jp/tomy/>

## インターネットラジオ局「WEB+JAPAN」開局

コンピュータ機器販売のスクラムは、インターネットラジオ局「WEB+JAPAN」(ウェブ・ジャパン)を開局した。WWWのテキストと画像に加え、RealAudioによるデジタルサウンドも採用したもので、5分間の番組を1週間ごとに内容を更新しながら提供する。番組名は「Girls」で、内容は東京に在住するパソコンユーザーの女の子をゲストに迎え、興味のある事柄などを本人の声で語ってもらう。女の子の画像やプロフィールなどのテキストとともに、ゲストやパーソナリティの声の温かみを伝える構成となっている。今後、テレビとラジオの中間に位置する第三のメディアとして展開していく方針。

問い合わせ (株)スクラム デジタルメディア事業部 TEL03-5330-1021

URL <http://www.webjapan.co.jp/>

## 地域の情報基盤を考える ハイパーネットワーク'95 別府湾会議

95年11月24日と25日、大分県別府市で「ハイパーネットワーク'95 別府湾会議」が開れた。未来のネットワーク社会のあり方を情報通信の専門家だけでなく利用者も一緒に考えようという趣旨で2年に1回行われているもので、今回が4回目となる。今年は大分県で行われる「ハイパーネットワーク地域実験」の立ち上げを記念するイベントとなっており、「ネチズン革命と地域情報基盤(RII)」をテーマに、「ネチズン(ネットワークに棲む新しい市民)」という言葉を発案したコロンビア大学の学生マイケル・ハウベン、「バーチャル・コミュニティ」を書いたハワード・ラインゴールド、アメリカの超高速ネットワークのプロジェクトにかかわるデビッド・ファーバーら、海外からのゲストも多数迎えられた。

大分県では老舗のパソコン通信ネット

「コアラ」が1994年の7月からIP接続を開始、すでに多くの会員がインターネットに個人のホームページを開いている。会議においてもコアラにホームページを持っている人たちが、インターネットを利用することによって自分たちの生活にどのような影響があったかを報告した。また、コアラの事務局長の尾野徹氏からは、「地域でのネットワーク利用はインターネット技術が核となるだろうが、それだけではうまくいかない。新しいシステムと新しい組織を構築して地域における情報基盤を形作る必要がある。そこで、WWWに電子会議の機能を付加した新コミュニケーションツ

ルの開発にすでに着手している。また、もっと簡単にインターネットにつなぐことができるように県内に情報コンセントを整備していく必要がある。そして、企業や行政、市民が一緒になった情報化委員会による地域基盤づくりをこれから行っていこう」と力強く呼びかけた。

(ハイパーネットワーク社会研究所/藤野幸嗣)



内外の専門家に、地元の企業や行政の担当者、市民のネットワーク利用者も加わり、500名の参加者による議論が行われた。

## 神戸に自治体関係者が集角 インターネットウェブ'95

11月27日と28日の2日間、神戸市六甲アイランドの神戸ファッションマートにおいて「自治体のインターネット活用」をテーマとしたイベント「インターネットウェブ'95」が開催された。主催は神戸市や神戸市マルチメディア・インターネット協議会、日本経済新聞社。同イベントは神戸市復興のプロジェクトとして官民共同で推進されている「KIMEC(KOBE INTERNET MULTIMEDIA ENTERTAINMENT CITY)構想」のキックオフイベントの意味を持つ。自治体や地域におけるインターネットの普及促進をねらいとしている。コンファレンスでも札幌や京都、大分、和歌山、大阪など各地から自治体や任意団体などが集まってそれぞれのインターネットの活用事例を発表していた。地方自治体がサーバーを作って学校などの情報発信を行

っていることや、日本の文化を紹介するホームページなどを作った体験談など、さまざまな内容が語られた。

展示会ではインターネット関連のハードやソフトを展示。大手メーカーがインターネット関連のソリューションを出展するとともに、地元神戸のプロバイダーやメーカーの出展も見られた。また、災害をテーマにしたプレゼンテーションなども行われた。

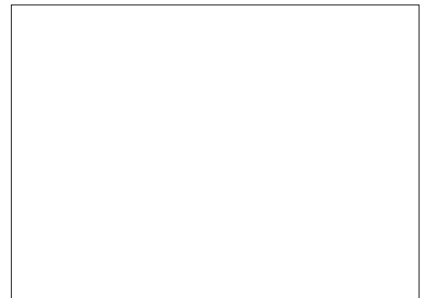
コンファレンスではほかに村井純氏や公文俊平氏なども講演を行い、インターネッ

トの最新事情や、地域とインターネットとの関わりについて語った。また、国内外の公的機関のホームページの優秀作品を表彰する「インターネットホームページアワード」も併催された。

また、会期中には「IP Meeting」や「インターネットサーカス」というインターネットカフェを神戸市内に数か所作ってインターネットをアピールするというイベントも行われた。



入り口では震災の記録ビデオが放映された。



各地の自治体の活用事例が多数報告された。

# News on the NetNews

## ウィンドウズ95 論争勃発?

fj.sys.mac

ウィンドウズ95日本語版がついに発売され、当然fj.os.ms-windowsが大いに盛り上がるかと予想されたが、実際は少し様子が違った。fj.os.ms-windowsよりもはるかにウィンドウズ95についての議論が活発だったニュースグループ。それはマッキントッシュユーザーの議論の場であるfj.sys.macである。サブジェクトを見ると「Win95 VS Mac」「WIN95に走らなくてもいい理由」など、ウィンドウズ95をテーマとした投稿がずらりと並び、記事の内容はほとんどがウィンドウズ95とマッキントッシュの比較。「マッキントッシュは創作の道具、ウィンドウズ95は共同作業もしくは制作のための道具」というように冷静に両OSを比較する意見が多かった。ただし、限られた投稿者同士でサブジェクトとはあまり関連のない議論に発展していくケースも見られたので、純粋に両OSの比較検討をしたいと思って読むには、ある程度飛ばし読みをする必要がある。

## 「95」の実用的な情報が満載

fj.os.ms-windows

ウィンドウズに関する情報が投稿されるニュースグループだが、fj.sys.macに比べて盛り上がりはあまり感じられず、具体的な使い方についての質問・回答が淡々と語られた感じ。ウィンドウズを実際に使っているユーザーが多いので、実践的なハウツーを読んで役立てることができる。ネットワークに関する質問が多く、「ウィンドウズ95でダイヤルアップ接続するにはどうしたらいいか」という問いに経験者が丁寧に設定のしかたを答えていた。

## ジャヴァに関する質問ならここに

fj.lang.java

ジャヴァ言語に関するニュースグループ。11月末に新しく作られた。プログラミングに関しての情報を始め、「ジャヴァのMAC版はいつ出るのか」「米国やオーストラリアにはジャヴァのユーザーズグループがあるが、日本でも作りたい」などの質問がよせられた。またホットジャヴァコンテストの告知なども投稿された。投稿数は12月初旬の段階ではまだ少ないが、これからの期待したい。

## 飲み物フリークが勢揃い

fj.rec.drink.liquor

同じく11月末に作られたこの新しいグループは、飲み物全般を楽しむことに関する話題を話すニュースグループ。開設されたばかりであるにもかかわらず、多数の記事が投稿された。酒に関するのニュースグループはfj.rec.drink.liquorという限定されたグループ

がすでに開設されているので、ここではジュースについての話題が多い。「ドクターペッパーはうまいかまずいか」という話だけで盛り上がりしてしまうという楽しい雰囲気なので、飲み物について一言持っている人は一度覗いてみるといい。

## 空の旅の裏ワザを紹介

fj.education

航空機による旅行についての話題を話し合うニュースグループ。11月は「ユナイテッドエアラインのマイレッジ・プラス制度について」と題された記事が投稿された。これは「マイレッジ・プラス制度」と呼ばれるユナイテッドエアラインのポイント発行制度のようなシステムについて、入会の方法やシステムの詳細を書いたもの。この投稿を読んで興味を持った人が何人かいたらしく、細かい質問もよせられた。海外旅行のさまざまなノウハウを求めている人にはおすすめのニュースグループだ。

## 新しく作られたニュースグループ

fj.announce、fj.news.lists、fj.news.group、fj.archives.answersに11月30日に投稿された「Active Newsgroups List of fj (fj委員会作)」によると、11月中に新設されたニュースグループは以下のとおり。

|                        |  |
|------------------------|--|
| fj.rec.drink.liquor    | お酒を楽しむことに関する話題。  |
| fj.rec.wine            | ワインを楽しむことに関する話題。   |
| fj.lang.java           | Java言語に関する議論。  |
| fj.rec.drink           | 飲み物全般を楽しむことに関する話題。   |
| fj.soc.war-and-peace   | 戦争や平和に関する話題。   |
| fj.sys.mac.comm        | アップルのマッキントッシュおよびリサについて。  |
| fj.sys.mac.programming | マッキントッシュの通信(LAN接続、PPP接続、パソコン通信など)に関する議論。                                   |
| fj.os.ms-windows       | マイクロソフトウィンドウズに関連する議論、情報。ただしウィンドウズNT固有の話題についてはfj.os.windows-ntを利用することが望ましい。 |

## ビデオ会議システム

## 普及価格のビデオ会議システム

クイックタイムコンファレンシングキット  
QuickTime Conferencing Kit

動作環境：漢字トーク7.5以降のOSとメモリー16Mバイト以上を搭載したマッキントッシュのクアドラ840AV、AV仕様のパワーマッキントッシュまたはパワーマッキントッシュ8500、7500。ハードディスクには6Mバイト以上の空き容量が必要。

発売元：アップルコンピュータ  
TEL：0120-61-5800  
価格：39,800円

マッキントッシュを使ったパーソナルテレビ会議システムのキットが販売された。すでにクイックタイムコンファレンシング製品として、ISDNカードを備えたNTTのFM-A71（パワーマッキントッシュ7100/80をベースにクイックタイムコンファレンシングを搭載させたシステムパッケージ）やパワーマッキントッシュ8500と7500（ソフトウェアのみ）があったが、コンパクトな会議用ビデオカメラとソフトウェアがセットされたパッケージが発売になって、やっとこれまでのユーザーも利用できることになった。

付属のカメラはAVマックユーザー向けパッケージには、1/3インチCCD（有効画素25万）F2.8、5cm～の手動フォーカス、標準感度1500ルクス、NTSCコンポジットカラーの仕様を持つビデオカメラ「クイックタイムコンファレンシング・ビデオカメラ100」と接続ケーブル、フロッピーに収められたソフトウェアなどが入っている。ビデオカメラは専用コードによりAV仕様のパワーマッキントッシュや、パワーマッキントッシュ7500と8500のビデオ入力ポートから電源を取ることができる。しかし、クアドラ840AVなどの電源が取れない機種の場合は、別途AC電源アダプターが必要だ。

ビデオカメラにあるのはレンズカバー兼用の電源スイッチ、フォーカスダイヤル、絞り調節つまみ、周波数切り替えスイ

チ（電源周波数に合わせておくと蛍光灯のちらつきが解消する）だけ。写す向きが変えられるように左右方向に80度、上下方向30度に動き、モニターの上に置いてもユーザーをとらえやすくなっている。

アップルトークとTCP/IPに対応クイックタイムコンファレンシングはアップルトークとTCP/IP（マックTCPが必要）をサポートしており、アップルトークの場合はパワートークのカタログサービスに対応する。画面サイズは送り手側のモニターウィンドウを変化させることによって変えられ、そのサイズが相手側に反映される。カラー深度や送信する画像フレーム数、画像圧縮形式、音声のサンプリングレート、音声圧縮形式などは送る側で調整できるが、内蔵マイクを持たないマッキントッシュでは「アップルブレーントークマイクロフォン」がないと音声の設定ができない。

テレビ会議は複数のユーザーとの接続をサーバーやリフレクターなしで行なわれ、2者で通信しているときにどちらかに接続すると3者会議へと変化する。ま

た、1対多の通信のための「放送」モードも持っている。共有ウィンドウという静止画を表示するウィンドウを持ち、PICT画像が表示される。参加者全員で画像に書き込みをしながら協調作業をすすめることができる。会議の特定の参加者のウィンドウを選び、クイックタイム形式の動画ファイルに保存することもできる。

遠隔地との接続には拡張カードが必要イーサネットを使用すると、アップルトーク、TCP/IPともに快適であり、カラー版CU-SeeMeといった感じになる。28.8KbpsのダイヤルアップIP接続では、画面は表示されるものの、帯域が狭いため画像が送れなくなってしまふ。ARA（アップルトークのダイヤルアップ接続）では、まったく動作してくれない。FM-A71では、64Kbpsのネット64接続でどうにか低速接続が、128Kbpsでストレスのない通信ができたので、帯域が狭いと使えないようだ。遠隔地と接続するには「H.320/ISDN拡張カード」を追加しなければならない。漢字トーク7.5以降のシステムとメモリーを必要とするものの、キューカムを使ったクアドラ700でも機能限定（H.261ソフトによる画像圧縮が不可）で利用できた。（菊地宏明）



## HTML エディター

ホームページが簡単に作れる

## ホタル

動作環境：ウィンドウズ3.1  
 発売元：デービーソフト  
 TEL：011-807-6700  
 価格：20,000円

HTML文書はプレーンなテキストファイルで、一般的なテキストエディターを使っても作成できる。しかし、そのためにはタグの意味や使い方などある程度覚えなければならない。「ホームページを作りたいが、HTMLは何だか難しそう」と思っている人や、「タグを丁寧に書いていく暇なかない」という時間のない人などは「HTMLエディター」と呼ばれるオーサリングツールを使うといい。「ホタル」はHTMLエディターだ。これを使えばワープロ感覚でホームページを作成することができる。

HTMLバージョン2.0まで対応

HTMLを作成するツールにはワープロソフトなどにアドインして使うものと単体のものと2種類あるが、「ホタル」は単体の専用ソフトだ。対応しているのはHTMLバージョン2.0で、ネットスケープなどが対応しているバックグラウンドGIF（ホームページの背景を指定する機能）や表組みのオーサリング機能はない。これらの機能のオーサリング環境を求めている人は、フリーウェアの専用ソフトなどを用意しなければならないので注意しよう。

ワープロのように編集

ホタルを起動させるとメインウィンドウが開く。「ファイル」-「新規作成」を選んでファイル名を入力すると編集で

きる状態になる。入力はまさにワープロ感覚。文章を書いてリターンキーを押せば改行され、フォントや字の太さなども自由に変えられる。

文章を選択して、「リンク」-「ハイパーリンクの設定」を選ぶと、ファイル名を入力するダイアログボックスが表示されるので、ローカルファイルの名前や、URLを入力する。「ハイパーリンクの設定」のほかに「ラベルの設定」という項目もある。ラベルとは、編集中にドキュメント内またはほかのドキュメント内のラベルが設定されている行にジャンプするための機能である。このほか箇条書きの設定などもボタンを押すだけで手軽にできる。

GIFファイルへの変換機能

画像を貼り付けたい場合は、貼り付け場所にカーソルを置き、「編集」-「ファイルから貼り付け」を選んで画像ファイルを指定すればよい。このソフトにはビットマップファイルからGIFファイルに



図1 ホタルのメイン画面。「リンクブラウザ」からURLやファイル名をドラッグして貼り付けられる

画像を変換する機能がある。ウィンドウズの標準画像フォーマットであるビットマップファイルを指定すると、自動的にGIFファイルへ変換する機能だ。このあたりは初心者には親切な作りとなっている。また、リンクを張る場合には、文書を選択し、「リンク」-「ハイパーリンクの設定」を選択して出てきたダイアログボックスにローカルのファイル名かURLを打ち込めばOKだ。

HTMLエディターの基本は網羅

以上のように、ホタルはHTMLエディターとしての基本的な機能は網羅しており、HTMLをまったく知らないという人には有効なツールだ。また、手軽にホームページを作成できるように「ボタン」などの画像データもサンプルとして入っており、自由に使うことができるので重宝する。ただし、難点もある。やはり、バックグラウンドGIFや表組みの機能が欲しかったことだ。デービーソフトはそれらに対応したソフトも開発中とのこと。今後のバージョンアップに期待したい。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



図2 図1で編集したファイルをネットスケープで表示した画面



図3 ボタンなど、ホームページ作成に役立つさまざまな画像ファイルが添付されている

## APEC インターネット奮戦記



前号のニュースで紹介したようにAPEC大阪会議では関西の企業・大学・行政団体などが協力し、会議支援と関西情報の発信をインターネットを使って行った。その高速環境はインターネットの実験の場であり、また、96年に開かれるインターネットワールドエキスポのプレステージのようにも思える。APECインターネットの構築に関わった山口英氏が、改めてプロジェクトの過程をふり返る。

## 約200名のボランティアと作った高速インターネットは とても楽しいメディアになった

レポート・山口英・奈良先端科学技術大学院大学

### はじめ

すべての出発点は1995年2月のことだった。「APEC大阪会議関西協力協議会（以下「協議会」）が行うさまざまな協力事業の一つとして、「インターネットを作ることはいかぬだろうか？」という打診があったのだ。APECを機会に大阪にインターネットを構築し、それを元に関西の情報発信をしたいというのが目的だった。この打診を受けたのが、大阪大学大型計算機センターの宮原秀夫センター長、下條真治助教授、そして私であった。

これを受けて、全体を検討するインターネットワーキンググループを3月ぐらいから開催することとなった。どのくらい予算がかかるのか、インターネットを構築して何を情報発信したいのかを話し合い、デザインを進めていった。

このワーキンググループには、NTT関西支社、松下電器産業、住友電工などの主要な関西の企業、大学、その他インターネッ

ト上で活発に活動している企業からインターネットに関連した人々が集まった。APECインターネットチームの誕生である。

### システムと予算との格闘

APECインターネットの目的は、大きく2つある。1つは会議支援。とくに、各国代表団やプレスの人々にインターネットを使える環境を提供しよう。2つ目は関西を紹介する情報を提供しようというものである。

しかし、ただ単にインターネットを作っても面白くない。自分たちが興味を持つもの、面白いと思うものもやってみようという雰囲気ができあがった。インターネットを使ってコンサートを中継したり、FMラジオを中継したり、ミュージックアーカイブを作ったり、交通情報や天気予報を提供したり、動画を流したりと、日頃インターネット上でできない実験をしてみようと考えたのである。

APECインターネットのような大きな仕掛けを動かすためには、それなりの予算が必要

となる。ワーキンググループが当初行った試算では、総額4億円ぐらいの機材を使ってシステムを作り上げることを考えていた。これら機材をレンタルするにしても、ある程度大きな資金が必要であることは誰にでもわかった。この段階での協議会の思惑としては、APEC大阪会議を運営する外務省などの中央官庁から補助金をもらい、それでまかなおうとしていたようだ。しかし、各省庁への打診を続けていた5月中旬、外務省からそっけない答えが返ってきた。

「提案されているようなAPEC会議支援事業は地元が行うべきものであり、外務省としては一切の補助はできない。地元で勝手にやしてほしい」

協議会が期待していた予算は煙と消えてしまったのだ。残るは協議会が持っている予算だけである。それは数千万円であったが、プロジェクト運営だけですべてが消えてしまいそうな予算額だった。機材を買う金はどこにもない。

カッコよく、楽しくやるぞ

この回答を受けたAPEC インターネットチームでは、長い議論の末、各参加企業が回線、ネットワーク機材、コンピュータ、コンテンツ、人員を持ち寄り、ボランティア的にシステムを作り上げることを選んだ。そして、「やるならやるでカッコ良く楽しくやるうや」ということになったのだ。

当面の問題は機材の集積である。予算もないので、足りない機材は各メンバーがいろいろな企業にお願いして貸していただくということになった。そして、7月中旬から機材の確保をはじめ、最終的にはパソコンを200余台、UNIX ワークステーション十数台、ATM スイッチ、ATM ルーター、19 インチラック、UPS、ディスクサーバーなど、必要な機材を集めてしまった。これでネットワークは組める。

情報発信で大事なものはコンテンツである。これも、8月中旬からAPEC インターネットチームの「WWW 使い」たちが精力的に情報を収集し、「Cyber Kansai」という関西の情報を集めたコンテンツを作り出した。これは日に日に内容が充実していき、APEC 開催前にもかなりのアクセスがあった。



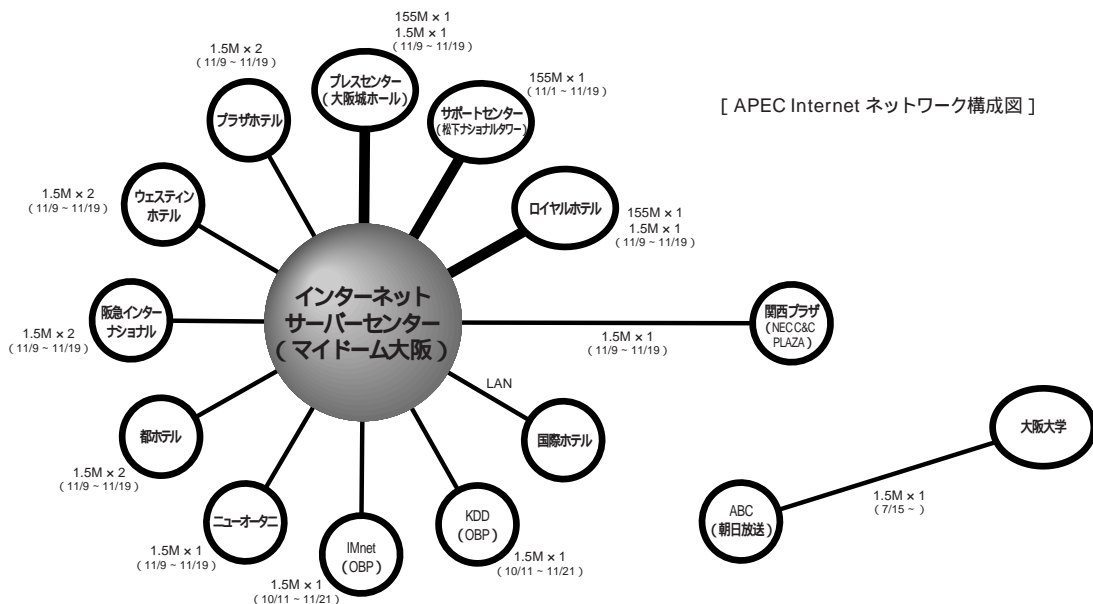
左から下篠真治さん、山口英さん、電通の小林さん、三浦さん。

準備作業は過酷だった

10月中旬からホットステージ (Hotstage) に入り始めた。実際に機材を組み、本番の体制を作り上げて、すべてのシステムがうまく機能するかをチェックするのである。ところが、今回のシステムでは、1.5Mbps デジタル専用線や155Mbps SDH 回線を使って6 ホテル、プレスセンター、ラボセンター (松下ツイン21の1階に設置した誰でも入れるインターネットカフェ)、NOCをつなぐものであったので、実際の回線の両端に機材を

持っていきと動作を確認できない。結局、ネームサーバーやWWW サーバーの準備だけを行うことになった。

11月に入ると、機材へのインストール作業が始まった。実際のインストールでは、ホテルやプレスセンターに機材を持ち込んで、セットアップし、動作を確認するのである。しかし、APECはコンピュータの展示会ではない。したがって、ほかのグループの準備も非常に多くある。また、セキュリティも厳しい。そのため、準備は時間厳守で始めて、一気にインストールを片づけなければなら





り、実用性の高い情報が集められている。APEC以降もなんとか存続させ、内容をより充実したものにしていけることができれば、国内のほかの地域にはない、面白いものになりそうだ。

WWWなどのコンテンツを作っている人たちにとっては、155Mbpsの回線を使いまくって、動画あり、音楽あり、中継ありの「ギンギンギラギラ」のコンテンツを動かしてみたというのは、非常に面白いものであり、現在の技術の限界もわかったという意味でよかったのではないだろうか。また、FM放送のlive feedなども日本では初めての試みであり、実験としての意義も深かった。

もっともよかったことは、最初はお互いに知り合いでもなかったAPECインターネットチームが、全体のオペレーションを通してうまく機能したことだろう。企業、大学人、学生、

地方行政官僚など、多くの組織からパラバラに集まったにははかなりうまくいったのではないだろうか。本当の意味での産学官共同のプロジェクトとして成功したとされている。1996年に行われるインターネットワールドエキスポでも、関西では今回のメンバーが中心になって動いていくようだ。またまた、関西で楽しいことができそうな予感がしている。

## 最後に

APECインターネットは、多くの企業、ボランティアで参加してくれた人たち、協議会の皆さんの御尽力で作られたいものである。ここで、厚く御礼を申し上げたい。そして、APECインターネットが提供した情報は現在もWWWに掲載している。興味があればのぞいてほしい。

URL <http://www.apec.or.jp/>

い。こんなあわただしいインストールは誰もやったことがない。我々は不安に思いながらも、100名近くのボランティアを動員し、何とかこれを乗り切った。

## そして本番がスタート

本番は、「マーフィーがやってこないように」と念じる毎日であった。ネットワークは回線と機材をすべて二重化し、単一の故障でもシステム全体が利用できなくなるような状況が発生しないようにデザインしていた。そのおかげか、遭遇したトラブルは比較的単純なものばかりであり、期間中は大したトラブルもなく運用できた。

しかし、松下ツイン21でのお客さんの対応や、アジア太平洋ミュージックフェスティバルやファッションショーのMboneによる中継、我々取材しにくる報道関係者への対応、コンテンツの増強、Streamworks

によるFM放送やラボセンターからの中継などなど、忙しい毎日だった。外国人記者が集まるプレスセンターでは、「原稿を印刷したい」とか、「どうやってメールは出せるんだ」という基本的な質問への対応も大変だった。ボランティアを含めてスタッフは睡眠不足の毎日。我々のことを取り上げる新聞記事が出るたびに、そのコピーをNOCルームの壁に張り、その内容にみんなで一喜一憂していた。そして、11月19日にはAPEC大阪会議も終わり、11月21日に機材を撤収。APECインターネットも完全に終了した。

## 終わってみて得たものは

結局、APECインターネットをやった我々は何を残したのだろうか。また、我々は何を得たのだろうか。

少なくとも、関西の地域情報をまとめたCyber Kansaiは、その内容もユニークであ

## 155Mbps で見たのは ごく普通のビデオ映像だった

by 編集部

ラボセンターにあるパソコンの画面には、アジアのロックバンドの姿がビデオ映像で流れていた。「インターネットじゃないみたいですね。普通のテレビを見ているのと変わらない」という私に、山口氏は「じゃあインターネットらしいところを見せてあげましょう」と言ってブチッとイーサケーブルを引き抜いた。その瞬間、画面はポーズしたように静止し、ケーブルを差し込むと、止まっていたミュージシャンは再び歌い始めた。

155Mbps の高速回線を実感したのはこのときだ。そこに訪れた一般の人々は、驚きもせず、当然のようにその映像を眺めている。プレスセンターや政府指定ホテルと違い、入場規制がなかったこのインターネットカフェだけが高速環境を誰もが体験できる場所だったが、インターネットの実状を知らない人にとっては、普通のテレビと何ら変わらない画面なので、驚くほうがおかしい。

テレビに追いついた高速回線  
今回コンテンツをプロデュースした電通関西支社メディア開発部の三浦文夫氏は「この回線環境で初めて既存のメディアに追いつけることがわかりました」と語る。高速回線を前提に作ったサービスは、松下のビデオ・オン・デマンドシステムを使ったニュース・オン・デマンド。夕方6時に放送される朝日放送のニュース映像を瞬時に切り出して大阪大学のサーバーにプールし、インターネットに流すというものだった。しかし、作業プロセスで重要だった電通と朝日放送の間の回線は1.5Mbps。「そこが155M だったらビデ

オの素材を交換して編集作業まで全部できたかもしれません」(三浦氏)。

APEC インターネットが残した大きな成果の一つは、「三浦さんのようなプロのコンテンツプロバイダーが、インターネットがどれくらい使えるものかを体験したことだ」と山口氏は言う。

### 既存のメディアを集めた Cyber Kansai

APEC インターネットチームが開いたWWW ページ「Cyber Kansai」は、インターネットで刻々と送られてくる大阪府警からの交通情報、グルメ情報や観光ガイド、吉本興業のコーナー、関西の大学生が自由に作るページ、NTT が開発した最新のサーチエンジン(魔法の検索)など、実用的で盛りだくさんの内容になっている。この「厚み」は、関西の出版社や放送局がすでにもっているコンテンツを集めて実現した。

なかでもAPEC 期間中注目を集めたのは「サイバラジオ」。在日外国人向けのFM 放送局FM ことごと組んで、Streamworks を使ったラジオの生放送を行った。FM 放送が日



上：ニュースオンデマンドの受信画面。ビデオ映像は大阪大学が開発したAQUA ビューアーと専用ソフトで見ることができた。

右：マルチキャスト技術Mboneの端末に映るNASAの映像。アジア太平洋ミュージックフェスティバル、ファッションショー「大阪コレクション」、大阪マルチメディア国際フォーラムと3つの番組を放送した。



ラボセンターには黒のジャンパーを着たスタッフが常駐。夜中には学生ボランティアを集めてネットワークの講義もあったとか。

本のサーバーからインターネットに流れることは、放送事業と通信事業が法律で区別されている現在ではできないことだが、それがAPEC という「実験」の場で初めて実現した。

### 音声サービスは ビジネススペースにのる

ふり返って三浦氏は「今回は実験としてやってみたわけで、ビジネススペースにのせるとなるとすぐには難しい。ただ、映像は無理でも音声サービスは射程距離に入っていると思いました。下條真治氏も「ネットワークに3分の2、コンテンツに3分の1のパワーをかけたのが実状。今後は逆転にならなければいけません」。

APEC をきっかけに生まれた「Cyber Kansai」は、1996年、新ドメインをとって次の展開へとつなげていこうとしている。インターネットワールドエキスポでの活動に期待したい。(錦戸陽子 nisikido@impress.co.jp)





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)